令和3年度小中英語パートナーシップ事業　推進地域実践報告（会津地区）

共通テーマ　「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

	拠点校Ⅰ （会津若松市立第五中学校）	拠点校Ⅱ （会津若松市立城南小学校）	協力校 （会津若松市立門田小学校）
次年度への展望	○「発信力の強化」 ・小中の内容のつながりと関連を重視したCAN-DOリストを構築する。 ・小中教師の交流を更に深め、指導の一貫性を模索し、学びの連続性をより意識した言語活動を展開する。	○ 五中学区の「強み」と「弱み」を考慮した、共通のCAN－DOリストを作成・活用 ○ 言語活動のさらなる充実を図る授業研究 ○ パフォーマンステストコンテンツのさらなる効果的活用方法の研究	○ CAN-DOリストの効果的な活用を図るため、令和３年度中に作成し、目標と指導と評価の一体化を目指す。 ○ 授業において，どのような表現を用いて伝えるかを自分で考えさせる場をできるだけ多く設け、主体的なコミュニケーションができるようにする。
取組を振り返って	○ 言語活動の継続による発信力の強化と学習意欲の向上 ・話題性のあるテーマを提供することで、自ら表現しようとする態度を養うと共に、伝えることへの関心を高め、自信をもたせることができた。 ○ パフォーマンスコンテンツの活用による表現力の伸長 ・未習内容や高度な表現に繰り返し触れることで、即応的な意思伝達力を養うことができた。	○ 各授業における言語活動の充実 ・目的・場面・状況を設定し、児童の体験と結びついた活動となるよう考慮しながら実践した。児童が必要感をもって、教師や友だちとやりとりすることができ、意欲的に発信しようとする姿が見られた。 ○ ICTの活用について ・児童自身が、正しく発音する力、話す力がついていると実感しており、パフォーマンステストコンテンツを活用してやり取りの練習の機会をたくさん確保できることは、非常に有効であった。	○ 授業の組み立てを工夫して、デジタル教科書やパフォーマンステストコンテンツ等、ICT機器を効果的に活用し、言語活動を充実させることができた。 ○ 教員やALTの話す英語、音声教材等を活用し、くり返し聞いたり話したりする活動を行うことで、「聞く・話す」の力が高まってきた。 ○ CAN-DOリストについては、拠点校Ⅱと共通化を図るため、拠点校ⅡのCAN-DOリストを参考に作成し、活用していきたい。
課題に対する具体的な取組	○ SpeakingとWritingを関連付けた言語活動の継続 ・「話す」内容を「書く」ことで文字にすることにより、表現に自信を持たせると共に、多様で幅のある発信力を養う基礎づくりができた。 ○ 習熟度に応じた支援 ・複数の教師による習熟度に応じた支援を継続することで、表現することへの抵抗が軽減された。 ○ パフォーマンスコンテンツの活用 ・伝えたい内容に適した表現をコンテンツ中から見出す能力を発達させる活用ができた。	○ インプット活動の充実 ・児童の発表ややり取りの前に、教員同士のスモールトークやデモンストレーション、音声教材を十分に聞かせ、内容への気付きや理解を十分に促してから、児童が実際に話す活動に入るようにした。 ○ CAN－DOリストの活用について ・年間指導計画をもとにしたCAN-DOリストを作成し、活用してきた。本校では、評価規準に基づいたルーブリックを作成し、単元シートとしてまとめた。それに加えて、児童にも、自分の達成度が一目でわかり、振り返りにも意欲を持って取り組めるよう、りんごの木の掲示にして活用してきた。	○ 導入で、教員やALTのパフォーマンスにより興味関心を引き出し、デジタル教材を用いて学習を始めた。その後、教員やALT、児童同士の会話を繰り返し行い、英語でのやり取りができるようにした。5学年では、スピーキングテストにより、場面状況に応じたやりとりの仕方を理解し、パフォーマンステストに自信をもって取り組むことができるようになった。
年度当初の課題	● 与えられたテーマについて英語を用いて身近な人に伝え、伝えた内容を書いてまとめる力	● 英語を話すことに抵抗感や苦手意識をもつことなく、英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする力 ● 自分の考えや気持ちなどが伝わるように、工夫して質問したり質問に答えたりする力	● 英語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力 ● 自分の考えや気持ちが伝わるように、工夫して質問したり質問に答えたりする力 ● どのような表現を用いて伝えるか、これまでの学びと結びつけて思考する力

推進地域の重点的な取組

○ 小中連携したカリキュラムの検討と構築
○ Speaking力強化のためにICT機器の効果的な活用